

# SfiI

## I. 認識配列

5'.....GGCCN NNN▼ NGGCC.....3'  
 3'.....CCGGN▲ NNN NCCGG.....5'

## II. 保存

-20℃

## III. 活性定義

1 unit は、反応混合液 50 μl 中、1 μg の pB315 DNA を 50℃、60 分間で完全に分解する酵素活性とする。

## IV. 起源

*Streptomyces fimbriatus*

## V. 形状

200 mM KCl  
 10 mM Tris-HCl (pH 7.5)  
 0.1 mM EDTA  
 1 mM DTT  
 0.2 mg/ml BSA  
 50% Glycerol

## VI. 酵素反応条件

・反応温度 : 50℃  
 ・バッファー : M

50 mM	NaCl
10 mM	Tris-HCl (pH 7.9)
10 mM	MgCl <sub>2</sub>
1 mM	DTT

## VII. 添付品

・10 x M Buffer (水色ラベル)  
 添付反応バッファーは、酵素反応条件の 10 倍濃度です。  
 制限酵素のチューブのラベルと同色のラベルのものをご使用ください。

## VIII. 反応バッファー別相対活性

Buffer	L	M	H	A	B
相対活性 (%)	25	100	5	75	5

## IX. 純度

本酵素 20 units と 1 μg の pB315 DNA を 50℃で 5 時間反応させた後、アガロースゲル電気泳動を行った結果、切断パターンに変化は認められない。

## X. 結合試験

本酵素で完全に切断された pB315 DNA フラグメントの 80%が T4 DNA リガーゼで結合され、そのうち 100%が本酵素で再切断される。

## XI. 備考

- ・認識配列内あるいは認識配列の前後に続く配列が dcm MTase によってメチル化されている場合、本酵素で切断できない場合があります。
- ・制限酵素のスター活性やメチル化の影響など、さらに詳しい情報についてはニッポンジーンのホームページをご参照ください。

本品は、試薬(試験研究用)として販売しているものです。  
 医薬品の用途には使用しないでください。